

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.11

(配信は不定期です。できる限り月1回以上は配信します)

【第1部】 2月15日【最終案内】少人数SS経営ゼミ

「EM日本撤退スキーム公表！ - 小人数で徹底解説と質疑応答 -」

【第2部】 SS関連トピック EM日本撤退その8

「EM（有）の99%の取得に3,020億円は高いか？安い？営業権は？」

【第1部】 【最終案内】少人数SS経営ゼミ「EM日本撤退スキーム公表！ - 小人数で徹底解説と質疑応答 -」

詳しくは次ページの案内をご覧ください。

1月24日のセミナーに参加されていない方、また、同セミナー収録CDも購入されていない方でも参加は可能です。

参加申込書

【参加希望】 + 【1月24日のCD-ROM購入】 でお申し込み下さい。

【第2部】 SS関連トピック EM日本撤退その8

「EM（有）の99%の取得に3,020億円は高いか？安い？営業権は？」

最近よく質問を受けるのが、この2点です。

A：3,020億円は高過ぎないか？安過ぎないか？のれん（営業権）は？

B：EM（有）を合同会社にして99%（100%ではなく）はどうして？

A：3,020億円は高過ぎないか？安過ぎないか？のれん（営業権）はいくら？

この3,020億円は、

(1) EM(有) からTG株8,300万株及び一部の化学品事業を売却

*実際の取得価額は3,500億円から4,000億円 (EM(有) からEM本体へ譲渡代金+3,020億円)

(2) 野村証券が、株価鑑定

1. 類似業種比較法：2,790億円～4,230億円

2. DCF法で3,400億円～4,650億円

となり、3,050億円と評価して3,020億円です。EM本体の手取り3,020億円です。

詳しくは、2月15日のSS経営ゼミで解説しますが、問題点はメルマガNo.10で指摘したように、TG株は、「高配当による高株価」である点です。

1. EM(有)のCashFlowの過半は、TG株によるものです。

2. そのTGの高い株価が占める簿価は56%はTG株です。

この高配当による高株価は、EM(有)の評価額に「2重計上」され、営業権が過大になったのです。

EM(有)はTG株を時価評価すると債務超過になっている可能性があります。

(H22.12で純資産額1,151億円で、現状の含み損1,240億円程度=△100億円かも?)

このため、営業権(のれん)は、3,000億円以上でしょう。もっと増えるかもしれません。

(専門的には、連結調整勘定といいます)

最長の20年で償却するとして最少で年間150億円の償却です。

TGの連結利益は、増えるどころか、100億円以下になる可能性もあります。

本当に現状の配当が維持できるのでしょうか？

IFRSでは、営業権の償却は不要ですが、資産除去債務、引当金が多額に計上されます。

日本基準でも地獄、IFRSでも地獄

1億株の譲渡=増資は遠い将来ではないと推定します。

誰が1億株の増資を引き受けるのでしょうか？

EM本体の所有する8,000万株を併せて.....

B：EM（有）を合同会社にして99%（100%ではなく）はどうして？

24日のセミナーの板書3で記したように有限会社と合同会社の違いは

・議決権

・利益分配割合にあります。

TGは99%取得しても、議決権は1:1です。

利益分配は、契約により当事者間で自由に定めます。

契約内容により、TGの今後に悲劇的に作用する可能性もあります。

15日のSS経営ゼミで詳しく解説します。

なお、本メルマガは、公認会計士中澤省一郎のセミナー等に参加したことがある方や、名刺交換をした方を中心として配信しております。本メルマガ配信をご希望のご友人等がいる場合には、HP <http://nakazawa-cpa.net/> のトップページからお申し込み頂けます。

ご本人のメールアドレスをご記入の上「購読」ボタンをクリックしてください。

本メルマガの配信をご希望でない方は <http://nakazawa-cpa.net/>

のトップページから、メールアドレスをご記入の上「購読解除」ボタンをクリックしてください。